



ギャラリー内で、作家に自作を語っていただくアーティスト・トーク。今回は、70年代末から持続的に、絵画の豊かな可能性を追い求めてきた画家・長沢秀之さんをお招きします。当館所蔵の《風景 - 不在》(1989年)と《生命体 No.8》(2008年)の二作品を中心に、この約20年の間で制作に生じた変化、あるいは変わらずに探求し続けているテーマを存分に語っていただきます。両作品に浮かび上がる不思議な人間像の意味についても、この機会にお話いただきます。皆様の参加をお待ちしております。

《生命体 No.8》 2008年

長 沢 秀 之 Nagasawa Hideyuki

2010年1月15日(金)
18:30-19:30

東京国立近代美術館 本館
2F所蔵品ギャラリー内

予約不要・聴講無料(ただし所蔵作品展観覧券が必要です)
所蔵作品展観覧料 | 一般420円・大学生130円
* 高校生以下および18歳未満、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料

アクセス: 東京メトロ東西線竹橋駅1b出口徒歩3分
お問合せ: 03-5777-8600(ハローダイヤル)
ホームページ: <http://www.momat.go.jp>



略歴

1947年埼玉県に生まれる。72年武蔵野美術大学造形学部産業デザイン学科卒。79年の個展(かねこ・あーとギャラリー、東京)以降、ほぼ毎年個展を開催。2008年には初の回顧展となる「風景からフウケイへ 長沢秀之展」(川崎市立美術館)を開催。89年「現代美術への視点 色彩とモノクローム」(東京国立近代美術館)、95年「現代美術への視点 絵画、唯一なるもの」(同上)など多数のグループ展に参加。現在武蔵野美術大学油絵学科教授。